



北栄中学校だより

札幌市立北栄中学校 令和7年3月14日 第11号

学校教育目標

自主性の尊重
連帯性の強調
健康の増進

令和六年度 卒業式 式辞「本当の強さをもった人に」(一部略)

卒業証書を手にした131名の卒業生の皆さん、本当におめでとうございます。今、一人一人に卒業証書を手渡ししながら、皆さんの姿をまぶしい思いで見えていました。皆さんの瞳は確かに未来を見据え、希望に満ちあふれていました。後悔も逡巡も見えない強い眼差しは、中学校三年間の生活を通して、自らの進む道を、自らの力で切り拓いてきた証だと思えます。その証をぜひ誇りに思ってください。

振り返ると、皆さんが入学したばかりの頃は、まだコロナ禍にあり、入学式をはじめ、様々な制約を受けながら中学校生活をスタートさせることになりました。マスク越しの会話、行事の縮小や活動の制限など、決して皆さんが思い描いていた中学校生活ではなかったかもしれません。しかし、それから三年が経ち、今年度の「音楽の日」では、皆さんが学年合唱の「瑠璃色の地球」を体育館中に響かせてくれました。そのハーモニーの美しさと完成度の高さに思わず目頭が熱くなったことを憶えています。そして、日常生活も少しずつ本来の姿が戻っていきました。たくさんの元気な挨拶があちらこちらから聞こえてきます。たくさんの生徒がマスクなしで笑いあい、語り合っています。三年前に皆さんが目にしていた景色にも少しずつ色がつき、鮮やかな景色に変わっていったのではないのでしょうか。

そんな希望が見えていく中、三年生が中心となる第68期生徒会メンバーは、北栄中学校に大切な宝物を残してくれました。「北栄中 幸せ返し憲法」。全生徒の幸せを考えて作られた、北栄中学校にとってなくてはならない心のよりどころとなっています。

皆さんには「人を幸せにする力」があります。皆さんがこの世に生を受けたとき、父・母は、ただただ元気に生まれてきてくれることだけを心の中で祈りました。生まれてきたこと、そこで生活してきたこと、そこに居るだけで多くの人々を幸せにし、これからも「あなた」を待っている人々がこの世の中にたくさんいます。どうか、自分を大切にしてください。「命」を大切にしてください。それだけで、これまで支えてくれた人々への感謝の気持ちとして充分です。

さて、皆さん、子どもから大人まで誰もが知っている「それいけアンパンマン」の作者である、「やなせたかしさん」のことをご存じでしょうか。戦争に動員された体験をもつ、やなせさんは、召集された軍隊の中で極度の食糧不足を味わい、その体験の中から本当の正義とは何か、本当の優しさとは何かを考えたそうです。やなせさんは『本当の正義とは、悪人を倒すことではなく弱い人や困っている人を助けることだ』と言っています。そして、『アンパンマンは自分の顔をちぎって人に食べさせる。本人も傷つくんだけど、それによって人を助ける。捨て身な、献身的な心無くして、正義は行えない。』と言っています。

今、世界では様々な国々で紛争が起こり、たくさんの人が亡くなったり、飢えで苦しんだりしています。また、日本では、ネット環境が便利になっている反面、誹謗中傷やモラルの低下により、苦しんだりつらい思いをしている人がたくさんいます。皆さんがこれから歩いていく道の途中にも、困っている人や苦しんでいる人達が必ずいます。そんな時には、ぜひ立ち止まって、しっかりと寄り添い、手を差し伸べることができる本当の強さを持った人になってください。皆さんには、自分を犠牲にしながらも弱い立場の人に寄り添い、助けることができるアンパンマンのような強い心を持った正義のヒーローであってほしいと願っています。

卒業生の皆さん、いよいよ『旅立ちの日』です。皆さんの晴れ舞台を、これまでお世話になった保護者・地域の方々・猪股PTA会長をはじめとした役員の皆様・小学校の校長先生、数えきれない関係した多くの方々と共に祝福します。そしてこれから、皆さん一人一人が新たに大きな一歩を踏み出し、それぞれの歩む道で活躍することをお祈りし、私からのほんまむけの言葉といたします。

令和7年3月14日

札幌市立北栄中学校 校長 北 伸章

卒業生代表「旅立ちの言葉」

雪解けの水が地面を潤し、春らしい空気を感じられる頃となりました。今日は、私たちのために心のこもった卒業式を挙行していただきありがとうございます。卒業生を代表し、心より感謝申し上げます。

今から三年前の入学式。慣れない制服を着て、様々な期待や不安を抱えながらこの学校にきました。しかし気づけば、隣にいる仲間も、授業中の風景も、私たちの日常の一部となっていました。お互いを応援し合い、熱く戦った体育大会。学級の個性を表現し、時間を忘れて盛り上がった学校祭。それぞれの歌声と想いが響き合い、心が一つになった音楽の日。行事も、それ以外の日常も、私たちにとって大切な思い出となりました。

さて、みなさんは三年間、どんな気持ちで学校にきていましたか。と聞くと、特に何も意識していなかった、正直行くのがめんどくさい日もあった、という人が多いのではないのでしょうか。しかし、めんどくさいと思いながらも過ごした何気ない時間の中に、授業中の先生との雑談で笑ったり、友達と他愛のない話をしたりと、忘れられない思い出や、忘れたくない人がいると思います。今になって振り返ると、そんな日々が愛おしく、かけがえのないものに感じられます。

気づけばあっという間に終わってしまった三年間。しかしその中には、一人一人にしかわからない喜びや葛藤があり、濃密な三年間だったと思います。そんな私たちの生活には、いつもたくさんの人のサポートがありました。時には私たちのことを叱りながらも、常に温かく指導してくださった先生方、学校生活を支えてくださった職員の方々、本当にお世話になりました。先生方からいただいたたくさんの言葉や時間は、この先も忘れることはありません。そして、いつも一番身近で私たちを支えてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。これからもお世話になりますが、変わらず、そばにいてくれると嬉しいです。

結びとなりますが、私たち131名は、本日をもって北栄中学校を卒業します。そしてこれからは、三年間で得た学びや思い出を噛み締め、それぞれが、それぞれの道を歩んでいきます。これまで私たちを支えてくださったすべての方々に、改めてお礼を申し上げるとともに、北栄中学校の輝かしい発展を祈念し、旅立ちの言葉と致します。

令和7年 3月14日

札幌市立北栄中学校

卒業生代表生徒

在校生代表「贈る言葉」

寒さの中にもやわらかな春の日差しを感じられる頃となりました。今日、この北栄中学校を巣立ってゆかれる卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

いま、先輩方との思い出を振り返ってみると、まず最初に思い浮かんでくることは、入学当初の新入生歓迎会です。先輩方は北栄中の部活動や生徒会の仕組みについて、真剣ながらも個性溢れる紹介をしてくださり、新しい環境に不安を抱えていた私達を、あたたかく迎え入れてくれました。

体育大会では、3年生のみなさん一人一人が競技に対して全力で取り組み、頑張る仲間を応援する姿を見せてくれたことで、私達も勝ちたいという気持ちが高まっていきました。

音楽の日では、聴く人全員の心を揺さぶるような歌声を体育館中に響き渡らせてくれました。これまでの努力が伝わり、3年生の団結力が伺えたあの歌声が、今でも頭から離れません。

また、学校行事だけでなく、日々の部活動や委員会活動でも、先頭に立って私達を引っ張ってくれました。目上の人への接し方や、仲間とのコミュニケーションの大切さなど、集団生活における重要なことは先輩方が教えてくれました。

そんな先輩方が卒業されると思うと、非常に心細いですが、今まで教えてくださった伝統を、これからは私達が受け継ぎ、良き手本となるよう頑張っていきたいと思います。

これから卒業生のみなさんは、それぞれの将来に向かって歩んで行かれます。その中で、大きな壁に立ち向かわなければならない時もあると思います。そんな時は北栄中学校で過ごしたこの3年間を思い出し、自分らしい道を突き進んでいってください。

最後になりますが、皆様のご多幸とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。今まで本当にありがとうございました。

令和7年 3月14日

札幌市立北栄中学校

在校生代表生徒